

泉屋博古館東京

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

#Press Release

2023
1.14

2026

不變
普遍
造形

THE MUSEUM OF SEN-OKU HAKUKOKAN
任文コレクシオン 中国青銅器名品選

Masterpieces of
Chinese Bronzes from
Sumitomo Collection

虎卣 殷後期(前 11 世紀)
泉屋博古館藏

不変／普遍の造形

住友コレクション／中国青銅器名品選

見どころ

01 泉屋博古館東京のリニューアルオープンを記念する展覧会の第4弾として、世界屈指の呼び声高い住友コレクションの中国青銅器を一堂に会する貴重な機会。表紙の虎首こゆうをはじめとして、コレクションを代表する名品がそろい踏み。はるか3,000年前の古代中国で生み出された奇想と超絶技巧の数々、さらにはその造形が後世の工芸に与えた影響まで、中国青銅器の不変／普遍の造形美を余すことなくお伝えします。

02 前知識がなくても大丈夫。難解なイメージをもたれがちな中国青銅器について、種類・用途・文様・モチーフ・金文・鑑賞の歴史など、さまざまな角度から丁寧に解説していきます。かわいい動物の姿をかたどった器や、一分の隙も感じさせないほど完璧に構築されたフォルムの器など、予備知識なしに楽しめるポイントが目白押し。



ほうかくきくしんきょう
方格規矩四神鏡 前漢末（前1世紀）
泉屋博古館蔵

03

今回の展覧会にあわせて、中国青銅器の3D計測を実施、そのデータを用いたデジタルコンテンツを制作。現代のテクノロジーを活用した新たな中国青銅器の展示を公開します。

04

今回の展覧会にあわせて、国内では希少な中国青銅器の入門書を刊行予定。ハンディサイズの入門書とともに、本展覧会を鑑賞することで、さらに中国青銅器の奥深い世界を体験することができます。

05

担当学芸員によるスライド解説トークや、講演会、実際に鑄造を体験することのできるワークショップまで、中国青銅器をさらに楽しむための各種イベントを予定。さらには港区に所在し、中国青銅器を収蔵する美術館とのコラボイベントも企画しており、2023年を青銅器の年にするべく盛り上げていきます。



しきょうそん
鴟鳴尊 殷後期（前13-12世紀）
泉屋博古館蔵

第1章

神々の宴へようこそ

今から約3,000年前、日本では長かった縄文時代も終わりにさしかかった頃、中国大陸では殷や周といった古代王朝が栄え、世界史上にもまれなほどの高度な青銅器文化が発達しました。中国の青銅器文化の最大の特徴は、神々に捧げるまつりのための器が発達した点にあります。なかでも、もっとも重視されていた祖先神をもてなす各種の器をつくるために、当時貴重であった

青銅が惜しげもなく使われました。本章では、こうした性格をもつ中国青銅器のさまざまな種類を、その用途に着目してご紹介します。なかには日常生活ではまず使われることのない難読漢字も出てきますが、そうした名前がなぜつけられたのか、どういう意味があるのか、という点も詳しく解説していきます。



かなえ/てい
鼎 肉入りスープを煮る器

たい
敦 穀物を盛る器

しゃく
爵 酒を温める器

い
匜 手を清めるための水を注ぐ器

ゆう
卣 酒or香草の煮汁を入れる器

じこう
兕觥 酒や水を注ぐ器

か
盃 酒を温め香草の煮汁と混ぜる器

しょう
鐘 打楽器の一種 2音を奏でる

- ① 饗養文鼎 殷後期(前12世紀) ② 円渦文敦 戦国前期(前5世紀) ③ 饗養文平底爵 殷前期(前14世紀)
④ 竊曲文四足匜 西周後期(前9-8世紀) ⑤ 見卣 西周前期(前10世紀) ⑥ 象文兕觥 殷後期(前12-11世紀)
⑦ 竊曲文四足盃 西周後期(前9-8世紀) ⑧ 虢叔旅鐘 西周後期(前9世紀) *いずれも泉屋博古館蔵



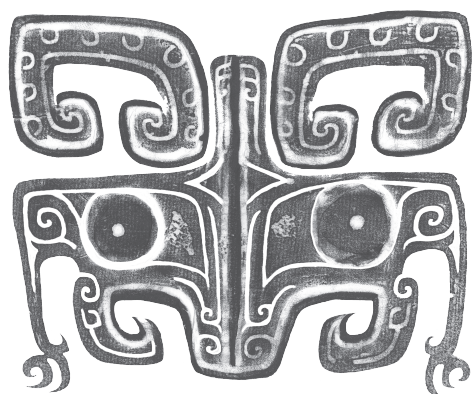
第二章

とうてつもんほうらい
饕餮文方罍 殷後期(前12-11世紀)
泉屋博古館蔵

謎多き文様の世界

中 国青銅器の最大の特徴のひとつは、器の表面を埋め尽くすようにあらわされた文様やモチーフの数々でしょう。器の機能という観点からは説明しがたい繊細複雑な造形には、中国古代の人々の思想や信仰があらわれていると考えられます。まつりのための器の表面を飾る文様であれば、さぞかしおめでたい意味合いがあったと考えたくなるのですが、後世に流行する吉祥文様とは異なり、実は中国青銅器の文様は、人間にとって危険であるがゆえに聖性を帯びているという、

「二面性」が特徴となっています。しかも、実在の動物をそのままあらわすのではなく、動物のパーツをさまざまに組み合わせて、この世ならざる文様をつくりあげるとい、「キメラ」としての性格もはっきりと認められます。本章では、謎多き中国青銅器の文様を、「二面性」と「キメラ」という2つのキーワードで読み解いていき、中国古代の人々の豊かなイマジネーションの世界を探っていきます。



ぜんもんそ
蟬文俎 殷後期(前12世紀) ↑文様拓本
泉屋博古館蔵

とうてつ 饕餮

饕餮とは、伝説上の貪欲な怪獣の名前。身がなく首だけの獣で、人に危害をおよぼすとされる。青銅器にあらわされた獣の顔面文様を饕餮文と名づけたのは宋代のこと。殷周時代当時の人々がこの文様をどのように呼び、どのような意味を与えていたのかは不明な点が多い。

かゆう
戈卣 殷後期(前12世紀)
泉屋博古館蔵

しきょう 鴟鵂

鴟鵂とはフクロウやミミズクの類を指すとされる。この器は背中合わせとなった2羽のミミズクをかたどったもの。かわいらしい見た目とは裏腹に、中国古代では鴟鵂は不吉の鳥とされた。

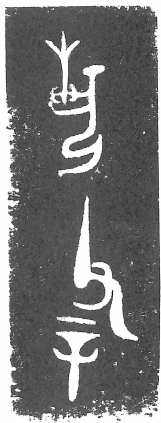




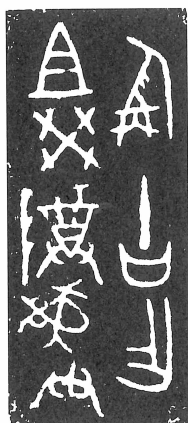
競貞 西周中期(前10世紀)
泉屋博古館蔵

青銅器の造形、文様の数々を一通り堪能した後は、続けて器の内側を見ることもお忘れなく。そこに深々と鑄込まれた文字は金文きんぶんと呼ばれ、現在の私たちが使用している漢字の直接の祖先にあたる文字です。この金文を通じて、中国古代の人々がどのような思いをこめて青銅器を鑄造していたのかを多少なりとも知ることができます。そこに記されている内容はさまざまで、王か

ら褒美をもらったことや、いくさで手柄を挙げたことなど、記念すべきことがらを後世にまで伝えるべく、そのことを青銅器の表面に鑄込んだのでした。古代からのメッセージを解読すると、器そのものからはなかなかわからない当時の人々の姿がぼんやりと見えてきます。展示会場では釈文・現代語訳もつけて丁寧に解説します。



執父辛盃 (銘文拓本)
西周前期(前11世紀)



備佐盃 (銘文拓本)
西周前期(前11世紀)



匱侯旨鼎 (銘文拓本)
西周前期(前11世紀)

金文

金文とは金属器にほどこされた銘文全般を指す言葉だが、狭義には殷周時代の青銅器銘文のことを指す。当時の社会状況を記した貴重な歴史史料であるだけでなく、文字としての美しさをそなえ、後世の書家たちを魅了した。

謎の古代文字が記す意味については展示会場で！

*いずれも泉屋博古館蔵



殷周時代に盛んにつくられた祭祀儀礼用の器は、秦漢時代には衰えて、次第に日用品としての性格を強めていきました。しかしながら、宋代に入ると古器物に対する関心が高まり、殷周青銅器のリバイバルが起きるようになります。徽宗皇帝の命で宮中の青銅器コレクションの調査がおこなわれ、その成果をまとめた図録『宣和博古図録』（泉屋博古館の名称の由来）が刊行されるなど、研究も大いに進展しました。こうした背景

の下、宋代では殷周青銅器を模した「倣古銅器」が数多くつくられるようになり、それらは交易を通じて中世日本にももたらされ、「唐物」として珍重されるようになります。本章では、中国青銅器の鑑賞の歴史と、それが美術工芸品に与えた影響について詳しく見ていきます。まったくの別世界に思える中国青銅器が、実は日本文化にも深く関係していたことをご紹介します、その存在をより身近に感じていただければと思います。

中国青銅器鑑賞の歴史



古銅象耳花入
銘 キネナリ
南宋～元(13-14世紀)
泉屋博古館東京蔵




キネナリの銘をもつ古銅象耳花入は、小堀遠州所持のいわゆる「中興名物」として知られる。頸部には饗養文の影響を受けた獣の顔面文様が飾られ、中国青銅器のデザインが茶の湯の世界に間接的に取り入れられたことを示している。



金銀錯獣形尊 北宋(10-12世紀)
泉屋博古館蔵

動物の姿をかたどった容器。背中に蓋があり、なかに液体を入れることができるようになっている。殷周時代では、こうした動物型の酒器を犧尊と呼んでいた。おそらくは殷周時代の犧尊を宋代に模倣して制作された器。

開催概要

- 展覧会名 不変／普遍の造形―住友コレクション中国青銅器名品選―
- 会 期 2023年1月14日(土)～2月26日(日)
- 開館時間 11:00～18:00 *金曜日は19:00まで開館 *入館は閉館30分前まで
- 休 館 日 月曜日
- 入 館 料 一般1,000円(800円)、高大生600円(500円)、中学生以下無料
*20名様以上の団体は()内の割引料金
*障がい者手帳ご呈示の方はご本人および同伴者1名まで無料
- 会 場 泉屋博古館東京 〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1
TEL:050-5541-8600(ハローダイヤル)
- 主 催 公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社
- 助 成 令和4年度 Innovate MUSEUM 事業  文部科学省
- お問い合わせ 泉屋博古館東京(広報担当:橋本旦子 展示担当:泉屋博古館学芸員 山本 堯)
web <https://sen-oku.or.jp/tokyo/> E-Mail pr-tokyo@sen-oku.or.jp

貸出可能画像



こゆう
虎白
殷後期(前11世紀)
泉屋博古館蔵



どうてつもんほうらい
饗養文方罍
殷後期(前12-11世紀)
泉屋博古館蔵



どうてつもんへいていしやく
饗養文平底爵
殷前期(前14世紀)
泉屋博古館蔵



ちもんほうろ
饗養文方炉
春秋前期(前8-7世紀)
泉屋博古館蔵



きんぎんさくじゅうけいそん
金銀錯獣形尊
北宋(10-12世紀)
泉屋博古館蔵



しきょうそん
鸚鵡尊
殷後期(前13-12世紀)
泉屋博古館蔵



きじんこ
夔神鼓
殷後期(前12世紀)
泉屋博古館蔵



けんゆう
見卣
西周前期(前10世紀)
泉屋博古館蔵



こきょうじこう
虎鴟兕觥
殷後期(前13-12世紀)
泉屋博古館蔵



ほうかく規矩四神鏡
方格規矩四神鏡
前漢末(前1世紀)
泉屋博古館蔵



かゆう
戈卣
殷後期(前12世紀)
泉屋博古館蔵



ぎしゅほうそん
犧首方尊
殷後期(前12-11世紀)
泉屋博古館蔵



ていふきそん
鼎父己尊
殷後期(前11世紀)
泉屋博古館蔵



えんかもんたい
円渦文敦
戦国前期(前5世紀)
泉屋博古館蔵



がもんたいどうこうしきんじゅうきょう
画文帯同向式神獸鏡
重要文化財
後漢末～三国(3世紀)
泉屋博古館蔵